

喜界島におけるケーススタディ

～特産品開発、地域再生、そして雇用創出～

鹿児島大学雇用構築学研究所 研究主幹
INS雇用研究会 代表 紺屋 博昭
鹿児島大学 雇用構築学ゼミナール 畑山 悠希

自己紹介します！

紺屋 博昭 (こんや ひろあき)	名前	畑山 悠希 (はたやま ゆき)
鹿児島大学大学院 司法政策研究科 (教授)	所属	鹿児島大学法文学部 法政策学科 (3年生)
労働法、労働市場法、 雇用構築政策	専門	社会保障法、労働法
札幌市	出身	鹿児島市 (焼酎は飲めません)
鉄道模型の工作 漫画を読むこと	趣味	落語鑑賞 土鈴収集
俺は長く生きすぎた	モットー	視る目と聴く耳、 振れる心

ゴマに学ぶ、 白ゴマを活かす振興会議




2012年12月6日(水) 17:00-19:00
喜界町役場 トレーニング室にて

ご参加、ご聴講をお待ちしております。

喜界島におけるケーススタディ

～特産品開発、地域再生、そして雇用創出～



鹿児島県大島郡喜界町

人口：7797人 (11月1日現在)
面積：56.92km²

平泉町と
だいたい同じ
人口：8182人
面積：62.83km²

位置：鹿児島から380km
フェリーで12時間
飛行機で1時間10分

数字で知る喜界島

- スーパーマーケットは 3 カ所
- 郵便局は 5 カ所
- 銀行は 2 カ所 (鹿児島銀行と奄美大島信用金庫)
- 信号は ? カ所
- 小学校 2 校、中学校 1 校、高校 1 校
- 病院が ? カ所 (徳洲会)
- ? 期連続で町長選無投票
- ハブは ? 匹

島の見どころ (パンフレットもご覧ください)

心に残ったこと ~「いろんな意味」での驚き~

- サトウキビばかり!

ざわわ〜ざわわ〜♪ の世界じゃない。

絶対的エース: サトウキビ

- 喜界島の耕地=20.20km² (総面積の35.5%)
⇒61.5%がサトウキビ (12.43km²)
- 農畜産物販売実績 (平成22年度) =27.7億円
⇒71.7%がサトウキビ (19.9億円)
- 取引価格=4,400円/トン (過去5年平均)
【甘しや糖の販売価格 (毎年12月末頃に公表される輸入黒糖売戻価格)】×
【分配比率 (48%)】×【歩留り (さとうきびの糖度×回収率 (86%))】+【消費税】
- 甘味資源作物交付金単価=16,320円/トン
(平成19~21年度の標準的な品質のもの)
- 台風で倒れても自力で起き上がる
- 品質向上のインセンティブほとんど無し
⇒ 植えばなし、蒔りばなし! ありがたい作物!



心に残ったこと ~きつと旅のおもしろさ~

- 人の良さに感動!
cf. 加工黒糖, 荒木集落
- 言葉がまったくわからない! (鹿児島も広いなあ)
- 島なのに漁業が盛んじゃない!
- ヤギは臭いの味 (見た目はかわいいのに)
- 島独特の概念と習慣
「ふあろうじ」⇒みんな親戚のような間柄
「うやんこう」(西半分)⇒全員の高参りをする
「しばさし」(東半分)⇒墓でごはんを食べたり酒を飲んだり

喜界島におけるケーススタディ

~特産品開発、地域再生、そして雇用創出~

期待のホープ①: 潤命草



和名: ボタンボウフウ (牡丹防風)
クロロゲン酸やポリフェノールが豊富

葉草的位置づけの植物 → 美容・健康効果の期待できる作物

期待のホープ②: 白ゴマ



セサミストリート

実は日本有数の白ゴマ生産地!

春播・夏播サトウキビの間作として。
⇒ 農家さんは小遣い稼ぎ感覚
⇒ 生産量が安定しない(台風など)
⇒ おいしいけれど高い



ゴマを売り出す難しさと解決策

- 食材としての存在感があまりない
⇒ ただの高いゴマじゃ買ってくれない

志産志消

喜界産ゴマのおいしさを理解してもらう土台作りが必要


島のガイドツアーとして「ゴマツアー」を展開

収穫→乾燥→脱殻→加工→試食(お土産)

- 食に集まる関心⇒ 食育、健康ブーム
- 消費者の顔がわかることで、農家さんのインセンティブ向上
- 喜界島だからこそできる観光の不足を補える


- ゴマは手の加え方が難しい (風味の活かし方)

ごま油は熱を通すと香りが抜けるから、そのまま食べるのが一番いいでしょうね



3000円!? 出前一丁についてるラー油で十分です...

- ゴマをふんだんに使うと、それだけ商品が高くなる



ごま油を絞った後のカス「ゴマカス」を商品にできないか?

ゴマカスを食べてみた!

- 揚げるとどうなる?



ゴマの風味がしっかり出ておいしい! (もう1回ゴマになるという発見!)
⇒ 揚げ物の衣として商品化できる?

まぶすとどうなる？



アイランドシュガー

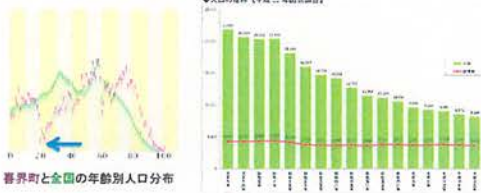
煎ったゴマカスを擦ると
きな粉のようになるという発見！

喜界島におけるケーススタディ

～特産品開発、地域再生、そして雇用創出～

喜界島が直面している問題(離島に共通)

- 「オカミ頼り」の意識
cf. 補助金や助成金
生活保護…全世帯の3割(生活扶助の平成22年度累計)
- 少子高齢化と人口減少




喜界町と全国の年齢別人口分布

●人口の推移(74歳以上人口比率)

「シマ」を再生するとは？

財政的に思い切ったことはできない。
「現状維持」を第一に
島民の「幸福度」をいかにして上げるか。

喜界島の幸せって何だろう？



喜界町役場企画課長
吉行 進 氏

- ①「いい島に暮らしている」という満足感と誇り
⇒サービス、行事、島外からの注目
- ②島の一員として社会に関わり、責任を果たす
⇒行事に参加する、伝統の継承、島で働く

喜界島におけるケーススタディ

～特産品開発、地域再生、そして雇用創出～

喜界島の「はたらく」事情

- 求職者の数はわからない！
∵ハローワークが無い、役場もほぼノータッチ
- 求人数も正確にはわからない！
∵表立った求人避ける傾向

近かれ運かれ「知ってる人」が面接になると、落としにくい。それより人柄や事情を知る人に対して内々に声をかける方が、島の社会がうまく回るみたいです。

喜界町商工会
岩川 信一 氏

チャンスがまわってくるのを
待つしか無い？ → **新たな雇用を
作ろう！**

実践型地域雇用創造事業(厚労省の支援事業として)

- 趣旨・概要
 - ⇒ 地域の実情に応じた創意工夫に基づく雇用創造の取組を効果的に推進するための…

地域で求められる人材の育成や雇用拡大に向けた能力開発などを目的とした**地域雇用創造推進事業**

当該事業の支援を通じて育成した人材等を活用し、波及することを目的とした**地域雇用創造実現事業**

- 実施期間：3年以内
- 事業規模：1地域あたり各年度2億円を上限
- 対象地域 ① 1又は複数の市町村
② 最近3年間(平均)及び最近1年間の地域の有効求人倍率が全国平均以下

● 事業内容


<p>① 雇用拡大メニュー (事業主向け) ⇒ 事業の拡大、新事業の展開等を支援することにより、地域の雇用機会の拡大を図る</p> <p>例：能力開発のためのセミナー 労務管理等に関する相談</p>	<p>③ 就職促進メニュー ⇒ ①②のメニューを利用した求職者・事業主などを対象に地域求職者の就職促進を図る</p> <p>例：求人情報の収集・提供 就職面接会の開催</p>
<p>② 人材育成メニュー (求職者向け) ⇒ 地域で求められる人材を育成することにより、地域の雇用につなげる</p> <p>例：地域内外の講師によるセミナー 専門的人材の育成</p>	<p>④ 雇用創出実践メニュー ⇒ ②で育成した求職者を雇用し、地域の産業及び経済の活性化等に資する事業を行うことにより、波及的な雇用機会を図る</p> <p>例：観光資源を活用した観光商品の開発 開発した商品のネット販売促進</p>

● 実施スキーム

```

            graph TD
            A[厚生労働省] -- ①選抜 ⑤評価 --> B[都道府県労働局]
            B -- ③委託 --> C[地域雇用創造協議会  
(同僚自治雇用創造地域)]
            C -- ④実施 --> D[市町村]
            C -- ④実施 --> E[地域の経済団体]
            C -- ④実施 --> F[都道府県]
            C -- ④実施 --> G[外部有識者等]
            C -- ④実施 --> H[その他の地域関係者]
            
```

役場は席に座らせるだけでいいんだよ！
計画書も俺が作る！
失敗した時には俺が辞めればいい話だろう？



喜界島観光物産協会
東 亮輔 氏

自治体名：喜界島
— レア・アイテムを活用した農商雇用 — 喜界島農商雇用実践プロジェクト

喜界町は鹿児島県本土から南へ300kmに位置し、サトウキビ農業を基幹産業とする島嶼地域である。島内に一定の雇用枠を提供する規模の企業は乏しく、就業者や新規就業者が減少し島内雇用を提供する余地は少ない。他方、サトウキビ栽培加工の基礎は充実しており、発展系として**白ゴマ**、**杉織冠**、**蜜酒**といった**レア・アイテム**農産物の製造加工出荷に注目が集まっている。

島内では観光の促進/観光資源の再確認といった課題があり、湧出泉、地下ダム、自生杉林、ヤシ、ガジュマル、湧き湧きといった同様の**レア・アイテム**が散在している。

上記**レア・アイテム**を地域資源として活用することを通じた農商(観光)分野の連携を図り、この分野において創造的なコーディネートor プロデュースを担う人材を育成し、関連セミナーや研修を通じて、同人材による雇用機会の拡大を目指す。



喜界町 人口 1,700人

主な事業内容 1年間に地域にて採用する人数 10名程度 以下のメニューの成果として

- 雇用拡大メニュー (事業主向け) アウトプット (50名程度)
 - 白ゴマ コーディネイト
 - フルーツ × プロデュース レアアイテムブラッシュアップセミナー
 - 蜜酒 ソリューション
- 人材育成メニュー (求職者向け) アウトプット (50名程度)
 - 白ゴマ ラーニング
 - フルーツ × レベルアップ レアアイテムベースセミナー
 - 蜜酒 ノウハウ
 - 観光資源 カイゼン
- 就職促進メニュー (求職者向け) アウトプット (50名程度)
 - 地域協議会参加企業による上記メニューの実施
- 実践メニュー アウトカム (10名程度)
 - 白ゴマ油抽出カスを活用した「ゴマカス」食料開発事業
 - 水資源、白ゴマ、杉織冠、蜜酒に活用した観光ルート/観光ガイド員養成事業
 - レア・アイテムを体験するための感性開発ツアー事業

CF、島ごよみ・島産特産を作成し、使用ツールを開発

さいごのまとめ

①喜界島におけるケーススタディ

島の不文律をふまえつつ、どこまで踏み込むかのバランス感覚が必須。大切な部分を侵さぬようにしながらあらゆる有効な手段を模索し、絡めていく。研究の先に島の暮らしがあることを、決して忘れてはならない。



②特産品開発

絶対的エースの「サトウキビ」にのみ頼るのではなく希少価値のある作物を安定的に栽培するべし。モノの価値を理解してもらうための働きかけが無ければ売れないだろう。



③地域再生

「喜界島民の幸せ」とは何かを考え続ける。人口の減少をくい止めるためにも雇用創出が求められるところ。

④雇用創出

その場のぎでなく、継続的に活用できるような能力の開発、人材の育成、そして島の発展に資する地域に根ざした産業を深化させる継続的雇用促進の取り組みが必要。官・民・島民が問題意識を共有しどこまで協働の姿勢をとれるかが課題。

